

# 自然共生河川研究所（岐阜分室）だより

岐阜分室 研究第三部 次長 石川 高史

## 土岐川学習「土岐川ウォーキング」

岐阜分室では、岐阜・愛知両県を流れる庄内川流域の小学校と河川管理者の連携による、川を題材とした学習の取り組みの手伝いをしています。学習の取り組みは3校で行なわれており、多治見市立昭和小の「土岐川学習」、名古屋市立志段味西小の「光と水と緑の総合学習」、同長須賀小の庄内川のピオトープを中心とした学習が実践されています。ここに紹介する「土岐川ウォーキング」は、昭和小学校における土岐川学習の一環であり、全校児童が参加して行なわれたものです。

目的は、土岐川に親しみ、土岐川の自然や環境を知る、ペア活動を通し、リーダーシップ・パートナーシップの育成を図るとされています。総合学習の一環として計画されていますが、単元授業等より時間数を捻出して児童会主催という形で実施されました。

実施内容は、1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生のペアでチームをつくり（90チーム）、学校の前を流れる土岐川に設定したコースをまわって学校に戻ってきます。コース途中には4つのウォークポイントが設置され、【渡ってきた橋の名前】、【ゴミ拾い】、【植物採集と植物の名前】、【石の採集】が課題として用意されました。これらのポイントには河川管理者を始めとする各機関の協力により、パネル展示を中心とした課題に関するコーナーが設けられています。

土曜日の当日は朝から真夏のような太陽が照りつけ、とても10月初めとは思えない陽気で、子ども達が川と親しむには絶好の条件でした。子ども達はそれぞれ水に濡れてもよい服装・靴のいでたち、ビニール袋や筆記用具などを手に校庭に集合し、児童会による進行で開会式を終え、まず1年生と6年生のペアチームが、その後、順次、他の学年ペアチームが出発して行きました。

歩き始めた最初の頃、天端道路や橋のせいもあり、



## 川を題材にした学習の取組み

“何するのー、何したらいいの”という子もいて、今一つ気持ちが乗らない様子も見られましたが、河川敷のコースに入ってから河原の植物を観察したり、川べりに入って魚を捕まえたり、石投げをしたりと子どもらしい活発な動きに変わっていきました。子ども達が緊張した表情を見せたのは、川を歩いて横断する渡河地点でした。安全な地点を選び、コープを張り、PTAの皆さんが要所に立っておられるなど、安全確保には万全が期されていました。それでも土岐川本川を子どもが歩いて横断するのですから緊張して当然でしょう。



コースの終わり近くには、川辺に綱囲いをした魚つかりコーナーが設けてありました。歓声を上げながら魚を追いかけまわした後、元気の余っている子どもは、合流している笠原川に服のままつかって大はしゃぎです。パックテストによる水質検査を最後に学校への帰途につきましたが、大きな亀を捕まえてきた子どももいたりして、普段できない川との付き合いを十分楽しんだ様子でした。

閉会式は子ども達がなかなか帰ってこないため遅れに遅れましたが、何とか午前中に終了しました。閉会式の中では学年1人ずつの代表が“川を渡れてよかった！”など、素直な気持ちを発表しました。校長先生の“これまでと違った土岐川を見つけてくれたことと思います。”の言葉どおりだったのではないのでしょうか。

このウォーキングの実施には、先生方やPTAの皆さんなど、多くの大人達の支えがありました。現在の子ども達が自由に川と付き合うにはまだまだ多くの課題があるのが現状です。でも、子ども達に同行して、生き生き、伸び伸びした本当に子どもらしい姿を見ることができ、昭和小学校の子ども達がこれまでと違う目で川を見、接してくれるといいなと期待しているところです。